

## (参考) 事後研修会 研修生の振り返り

各研修生には事後研修の最終日に 今後アウトリーチを行なっていく上で取り組みたいこと、身につけたいスキル、受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて、の3つの項目について振り返りを行なってもらった。

### 研修生 1

今後アウトリーチを行っていく上で取り組みたいこと

- ・地域に根付いたフリースペースをつくっていききたい。
- ・訪問する前に事前情報をできるだけ多くとっておきたい(家族の面談もしておきたい)。
- ・本人とのつながりを薄皮を積み重ねるように築いていければと思う。
- ・フリースペースに来られるようになって、来所してくれた人には暖かい雰囲気を迎えたいと思う。

身につけたいスキル

- ・経営能力
- ・地域ネットワークの構築
- ・支援を必要とする人それぞれの寄り添い方
- ・常に初心にもどる力

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・受入れ団体は居住している市の隣の市なので、今後は公開講座などに参加したいと思っている。
- ・フリースペースが動き出したら直面する問題も多々あると思う。そんな時、相談にのってもらったりしたいと考えている。
- ・他の研修生は、実際にアウトリーチなど動かれている方ばかりなので、うしろからついていくという感じでした。
- ・小金井から3名の参加でしたので、良い意味で連携がとれていけたらと思います。  
はじめの一步

## 研修生 2

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・3月末から予定している若者対象の「フリースペース」を現実的に開くこと。地域の信頼を得ること。利用者の状況に応じて、柔軟性な対応ができるような、全体的にスキルアップを心がけること。
- ・まず、色々な若者と出会い、多様な経験を重ねながら、次のステップに進んでいきたい。

身につけたいスキル

- ・人間関係を築いていく上で必要なこととしての、人に優しくより添う能力。相手の今の状況と、背後に潜んでいるものを理解できる能力。そこから必要機関につなげるコーディネートする力。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・「ピアサポートネットしづや」とのネットワークフリースペースを運営していくために必要なスキルや、利用者の更なる受け入れ先として、これからもつながってきたい。
- ・研修生同士のネットワークは、大変重要だ。特に近隣の方達にはこれからも相談に乗ってもらったり、利用さえてもらうことも多い。

小金井同士のつながりも、具体的になり、今後の展開が楽しみだ。

### 研修生 3

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・アウトリーチで外出できるようになった人への発声、コミュニケーションプログラム（プログラムの充実）
- ・実績を一つ一つ積み重ねて連携体制づくり
- ・職業体験先の開拓、利用者と体験先とのコーディネート、課題の克服に向けた支援
- ・ジョブコーチのような支援（仕事の上で想定できる場面における対応の練習など）
- ・地域とのつながりを深めていく

身につけたいスキル

- ・柔軟な姿勢、対応力（自分の価値観で判断しない）
- ・豊かな発想力
- ・フットワークの軽さ
- ・相手の話をしっかり聴き、理解する力
- ・見極める力
- ・チームの中での調整力

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・情報交換（取り組みや状況）
- ・研修生が所属する機関への視察
- ・困難ケースなどは、幅広いアイデアをもらえるようなつながりを作りたい

#### 研修生 4

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと。

- ・アウトリーチを行う支援機関（自分の法人）の情報を、いかにそれを望んでいる人に届けるのか。
- ・人と人の顔が繋がって、アウトリーチしてつながるパターンを増やす（JC 的支援）。
- ・企業とのネットワークや仕事をつくりだすこと。
- ・地域の中で、頼られる支援やスキルを持った個人を送り出すこと。

身につけたいスキル

- ・上記のことを達成するために必要な体力、気力、休息など。
- ・支援の質を高める為の勉強 / 情報収集。
- ・プレゼンテーションのスキル

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・受入団体の実践を体験～経験することで、新しいアイデアや工夫を普段の業務に取り入れる事ができた。
- ・仕組みやシステムで対応できることと、そうではないことの仕分けが理解できた。
- ・正しいことは一つではない。大人になる。
- ・研修生同士 みなさんありがとうございます。
- ・細く長く
- ・人材育成 - 成長（いるだけ） - しのぐ、生き残る

## 研修生 5

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・教育、医療、非行少年との連携

学校や職場等の所属機関が無いと社会から孤立しやすいので、「予防」支援を取り組んでいきたい。

- ・法人間の連携

身につけたいスキル

- ・直感や経験を裏付ける理論

知識だけ、経験だけに頼らず、自分の支援スタイルを説明する力を身につけたい。

- ・社会資源を知る

包括的支援が必要なので、他機関のことを知りたい（リファーマーというか協力という意味合いも含めて）。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・実地研修先岡山県リスタートでは、今のところ視察をし合うなどの付き合いとはなっていないが、各職員との SNS を通した付き合いがあり、リスタートの取り組みを知る機会があり嬉しく思う。今後は、法人同士でのネットワーク構築ができればいいなと思う。
- ・このアウトリーチを通して出会えたことも何かの縁だと思うので、何かあれば助け合えるような関係を築いていきたい。

## 研修生 6

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・子ども・若者に対して、支援して行く上で「社会資源」を有効的活動がなされて、支援策入り口から出口が明確にできるネットワークの構築を目的に活動して行きたい。

身につけたいスキル

- ・いま以上の、人間としての絆を深めて行きたい。
- ・何が起きても、とらわれない自分の信念！

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・NPO ピアサポートしづやのネットワーク（関係性）は、現在行っています。また、研修生の皆様方とは、いろいろな面での活動内容等の情報を常に載せております。

## 研修生 7

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

私自身元教員をしており、現在も非常勤で高校で教えています。同じように早期退職された先生や、非常勤の先生にお声をかけて、賛同していただける方がいらっしゃれば、不登校、ひきこもりの方の「家庭教師」事業をおこしていきたいと思っています。

身につけたいスキル

今、「精神福祉士」を取るために、通信の大学に入学を考えています。たとえ資格がとれなくても、法的行政機関におけるリファーマーをどのようにおこなえばよいか、学びたいと思っています。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

ありがたいことに、受入先の「リスタート」様は「御相談があればいつでもおっしゃって下さい」と言って下さっていますし、車で一時間程の距離ですので、先方のご都合のよい時は、足を運ばせて頂こうと思っています。

せっかくの機会ですので、数年に一度は「研修会」という名前で、北は北海道から南は沖縄まで、各地で「同窓会」をおこなえればと思います。

## 研修生 8

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・つながりを大切にしたい支援（対象者、チーム、関係機関など）
- ・自ら発信することの大切さ（自分達の存在、活動をアピール。助けを求めていることもアピール。「こんな事、得意な方いませんか？」「私達こんなことで困っています。解決策、知恵を…」

身につけたいスキル

人と関わる方法。やり方は一つではない。いろんな切口から入っていけるような対人スキル、引き出しがあるといい。その中で、一つでも良いので自分の強みを見つけられたら良いと思う。出会いを大切にしたい訪問を。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・ネットワークが全国に広がった。遠くの人を近くに感じられるようになった。
- ・このつながりをどう活かすか、大切にしていきたい。公私ともに。
- ・支援者側も大いに悩み、困っていることが分かった 貴重な発見でした。

## 研修生 9

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

自分自身の知識の幅を拡げ、相談者に幾通りの選択肢を提案できるようになりたい。

身につけたいスキル

- ・宮崎にある社会資源（サポステ、ハローワーク、就学支援施設等）の取り組みを詳しく理解したい。
- ・障害者の保障、サービス等について学びたい（発達、精神）

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

SSFで2週間研修をして代表理事の思いを十分に理解し、共有されているスタッフの方の質の高さにおどろきました。佐賀でのシステムは大きすぎて、真似することは難しいが、スタッフの思い等、刺激になる事が多々あります。まず一つ、宮崎のひきこもりネットワーク団体で視察研修を計画しました。二つ目として、楠の会での学習会を打診しています。又、相談において、こまった事やわからない件は、いつでも連絡下さいとの言葉を頂き、ありがたく思っています。

## 研修生 10

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・多くの経験は必要であるが、独断や経験主義に陥ることなく、支援の方向性を事例に集団で検討（ケース会議、スーパーバイズ、関係機関との連携 etc）。総合的な見解を軸に個人の日常の学習による力量を示す機会として捉え向かっていく。

身につけたいスキル

- ・各専門分野の基本的理解  
発達段階論、教育、福祉、医療、就労状況など学習しておく
- ・組織内でロールプレイ実践など...集団で高まり合える関係の構築！

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

同じ NPO 法人であっても、根幹部分の一致から長い歴史を経て枝分かれしている。それぞれの細部に渡る一本一本の枝の先を、各組織がどのように広げ、運営・発展させていきたいのか。又、現在の予算、困難な側面を共有化することによって、同じ方向を向いている支援団体が、思想、心情を越えてつま先をそろえながら、どう連帯し全国化していくのか。そんな礎になっていきたい。



## 研修生 11

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・アウトリーチについて

今回の研修を通して得る事ができた手法を取り入れながら、できることからしていきたいと思います。

- ・支援について

他地域の取組みを知ることができたので、自分の地域でもできることをしていきたいと思いました。

身につけたいスキル

- ・アウトリーチの手法

研修先でも学ばせていただいたのですが、いろいろなやり方があるので、今後も学んでいきたいと思います。

- ・アセスメント

よりよくアセスメントできるように、学んでいきたいと思います。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・受入団体について

実地研修先が隣接する県にあり、また、日々の業務の中で連携させていただくこともあることから、様子を知る事ができたり、また、顔のよく見える関係になれたことは、とても大きい収穫だったと思います。また、アウトリーチの手法も学ばせていただき、得るものがたくさんありました。

- ・研修生同士について

一年の間に、同じ研修生が2回も同じ場を共有でき、親しみや連帯感がより強くなりましたと思います。全国のいろいろな支援現場を知ることができ、本当に勉強になりました。また、皆さんの熱意を私もいただき、元気もいただくことができました。

## 研修生 12

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・ 伴走型支援能力の強化（視点、同行、訪問）。
- ・ 今までは思うがままに支援をしていた面もあるので支援（アウトリーチ）の対象なのか？支援の適正化のため、自分の中でのライン引きの基準をつくっていく。自身のテンションが高いとの指摘ありなので注意。抱え込まず継続して支援活動できる体制を考えていく（連携を含む）。
- ・ あまり頭のよい人にはならないようにしたい（助けてと言える相談員）。

身につけたいスキル

資格にとらわれない専門分野の多重化

- ・ 現在 オタク（精神保健福祉分野） 発達障害、精神障害、軽度知的障害
- ・ 勉強中 キャリアカウンセリング、中間就労（ジョブコーチ）、法律（弁護士との調整力）

対外的発言根拠としての資格

- ・ PSW、短大 or 大学に行かないと受験資格がない。養成校は入学資格がない。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

受入団体

相手が行政であり、また NPO の人もみなさん忙しくしていらっしゃるの、遊びに行ったり、ケースが動いた時に声をかけたり、橋渡し願う程度が限度。現場職とは仲良くなったので、今後も情報交換していくことになっています（こだまでこすプレ 地元 2 名参加）。

研修生同士

人とフラットな状態から話すのはあまり得意ではありません。みなさんのようにふるまえないけど、同期会をつくってもらえるそうなので仲良くして下さいね。

立場

川崎青年会議所で卒業、横浜パーソナルサポートサービスでの相談員、コス援護会での市民活動で約 2 年の活動（内閣府の名前も借りながらして）の中で、お会いする人や分野の人が重なってきました。保護士の推薦を受けて只今法務局で身辺調査中なので、何が出てくるかドキドキしております。一人ではなんにもできないので、相談者に相談できるたよりない相談員になりたいと思います。厚労省管轄のヤングジョブスクエアにかつぎこまれたのが 2009 年。思えば遠くへきたと思っています。

## 研修生 13

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・ピアサポート、アウトリーチに向けて、サポーターになりたい人に向けた勉強会
- ・家族の方、本人と対話・面談
- ・ひきこもりの親の会、当事者の会
- ・チームのふりかえりとコーディネートするための時間をめげずに重ねる
- ・居場所づくりの環境づくり、関係づくり

身につけたいスキル

プログラムをチームでコーディネートできるようになりたい。チームの一人として、サポーターの一人として、個々の生き方の違い、置かれている現状を受け止めながら、話し合うこと、向き合いこと、分かち合うことを身につけてほしい。グループワークしながら傾聴と受容、押しつけない、正義をふりざさない。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

代表、部長と共に

- ・教育委員会、子育ての会、民生委員会、社会協議会、精神障害者協議会、精神障害者の家族会等に活動の主旨と実態を紹介できるようにコンタクトをとっていく。親を出す。その後には、ピアサポート、アウトリーチに向けてのスタッフの話し合いに参加してもらおう。ピアサポートの歩みの一部を共感してもらえるように話し合いのチャンスを何度も続ける。
- ・研修生同士に参加の呼びかけを通して交流し合う。グループワークの共有を大事にしたい。ひきこもりからの立ち上がり体験発表を通してつながっていききたい。

## 研修生 14

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・いまのところ教育からのアプローチになっているが、医療や福祉、そして就労とのつながりを具体化して、そこから学び、大きなというか重層的な視点からの支援のスキルを学びたい。
- ・そもそもところで、なぜ70万人とも言われる社会的ひきこもりが起きているのか。その経済的、社会的背景（無縁化）、心理的・文化的背景としての認識を深めていきたい。

身につけたいスキル

- ・と同じ。前後してしまうが、どうしても「ひきこもり」に焦点化しすぎると一面化にしてしまうので、現在ひきこもっている青年（多くの）層との意識的な交流を行いたい。同じ青年世代として、彼らのもつ共通性がきっとあるだろうし、彼らから支援の大切なポイントを学べるような気がする。なぜ「友達」たちが、思春期・青年期をくぐるなかで「引き裂かれて」しまったのか。
- ・どうしても自分のフィールドが我田引水になるので、違ったアングルからの支援の取り組みを学びたい。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・今回の実地研修では、プライベートな面でもとても配慮してもらい感謝しています。全体をとおして、青少年自立支援センターの支援のネットワーク体制を知ることができ、今後そこのつながりを意識して（たとえば足立サポステなど）、連携を考えていけるのではないかと。
- ・宿泊型 集団でひきこもりをのりこえる のとりくみの実際の姿を見て、時々そこに出掛け、その可能性についてもう少し知りたいと思う。

## 研修生 15

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・今の若者がいかにこの不況社会に生きていくのに、どう彼等の老後までの中、長期的プラン（全てが一人一人が手作りプランです）を国が、行政が基軸づくり、そして支援する民間 NPO はじめ支援者が組み立てるか。再構築の大切さを知りました。

身につけたいスキル

- ・思い切った決断性あるアイデアあるスキル。理論ではなく、その時代時代にマッチングしたスキルの養成が必要と思いました。ゲートキーパーという資格も昨年 10 月もらいました。資格、スキルを常に修養する研澄を必要だと存じます。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・ネットワークにおける注意点

今回参加した研修生において、これから時代と共にますます増加する若者、子育て（子ども）支援のネットワークにおいて、今、大きな流れが分かります。就労を目指すアウトリーチと介護業界、障害者団体もアウトリーチが地区団体、民生委員、自治会と共に始まりました。それに対応し、今回のアウトリーチはどのような姿で変化、対応し、組織財源を維持していくのが課題も残されると思います。ワンストップ的なアウトリーチにならぬため、色々な工夫のシステムづくりが大切なのかなと思いました。

- ・8つの資格1年でとる

## 研修生 16

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・情熱を忘れない
- ・今、自分達の団体でやっている方針、内容を改めて見直す。
- ・精神医学、福祉、就労支援、カウンセリングの知識を今以上につける。ただし、限界もあるので無理なことはしない。無理な事はそれを得意とする団体に任せる。

身につけたいスキル

- ・自分達の団体のできるところ、できないところを見極める。
- ・他団体との連携力、その前にスタッフ間の連携力
- ・目の前にいる人を大事にする（親、当事者、支援者、他団体の人に限らず）
- ・立場を超えて、一人の人間同士の関わりをしたい
- ・当事者に対して腫れ物にさわるような扱いはしない

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・私が研修に行った団体は地理的に近いこともあり、私達の団体にできないことがあれば、相談したい。
- ・相談したうえで、フリースペースよりも寮に合う人がいれば紹介したい。
- ・三河地域在住の当事者で就労に興味があるときは、がまごおりのサポステに同行する。
- ・研修生同士は地域的に遠いこともあるので、直接会って連携は難しいが、自分にできないことがあれば、電話・メールで連絡取り合う。
- ・また、私達の団体の事も知って欲しいので、会報を毎月送らせていただきたい。

## 研修生 17

### 今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

今後、引きこもりやニートの方々を支援していく上で、常に当事者と同じ目線に立ち、よりそい同じ目標を見つめ、取り組んでいきたい。また目標ややりたい事がみつけれないのならば、一緒に悩んでどうしたらいいのか、今の当事者に何ができるのかを話し合い解決策を考えていきたい。また支援員の生活も保障するためにも、実績をあげ、必要性がある事をアピールし、安定性を確立したいです。

### 身につけたいスキル

スタッフ、当事者が楽しめるようなプログラム作成のスキル、実行力。

### 受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

人一人を支援していく上で、やはり他機関との連携は必要だと改めて再認識いたしました。なぜならば、一つの施設ではどうしても限界があり、当事者に対して的確な支援ができないと考えております。当事者の中には複雑なケースも多く医療・保健・福祉・教育、場合によっては法的な関与の必要もあり、一つの施設ではどうしても解決不可能で、ただ時間だけが浪費してしまいます。そのためにも、迅速な対応がなによりだと思います。常日頃より、施設間、スタッフ間との連携を行うことで包括的な支援ができると感じております。

## 研修生 18

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- ・個別のケースについては、対象者を尊敬し丁寧にじっくりとした支援を継続したい。
- ・ネットワーク整備の視点からは「子ども・若者支援地域協議会」が設置されたら、地域自立支援協議会の委員として協力ができるよう努めたい。

身につけたいスキル

- ・10代や20代の年代層の人達の遊びの流行をもっと知りたい。マリオカートぐらいは完走できるようにしたい。
- ・就労に係わる支援のスキルをつけたい。

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

- ・実地研修の報告資料の作成の助言をいただけるなど、電話・Eメールで適宜連絡がとれるようになりました。
- ・具体的なケースの連携ができる距離に受入団体があり、とても心強く思っています。
- ・研修生に同じ地域の方がいらっしゃいました。同じ対象者の情報をもっていましたので、連携し役割分担等を行い、家族支援、緩やかな地域生活支援を行いたい。



## 研修生 19

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

1. 先ず、人を育てる事。内部のシステム作りを行う。アウトリーチを行う上で、様々なスキルが必要であるが、それに適した人、と言うのがあると思われる。
2. ひきこもり支援では、当事者への支援の他、家族への支援も大切。親に、人としての力がついてくるとひきこもりの子どもの生活環境も良くなる。
3. 支援を長く継続する為に、経済的基盤を作りたい。又、その支援を多方面に渡ってあおぎたい。手をつなぐ様々な人や機関と手をつなぎたい。

身につけたいスキル

1. 組織の経営能力
2. 様々な出来事を整理できる力
3. 直観力
4. プレゼンテーション力

受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて

受入団体

- ・3月に会の会員と共に、がまごおりサポステと北斗寮を訪問予定。メールや手紙の支援もすでにあり、交流は進んでいる。

研修生

- ・全国に頼れる友人ができ、感謝です。メーリングリストで、イベントの告知や運営上の悩み等、相談できたらいいナ、と思います。

## 研修生 20

今後アウトリーチを行っていく上で取組みたいこと

- 1) スキルのアップ
- 2) アウトリーチを行うための内部のシステム作り
  - ・スタッフの新規採用、人材育成
  - ・業務整理、システム化、役割分担
- 3) 居場所・プログラムの充実
- 4) 利用者1人1人への丁寧な対応
  - ・ヒアリング
  - ・個別支援計画の作成・見直し
- 5) 楽しいこと、楽しそうなこと

身につけたいスキル

- ・アウトリーチについて
  - 1) アウトリーチ全体のスキルアップ
  - 2) ドア越しの対応のスキル
  - 3) 様々な方にアウトリーチの手法や体験などを知りたい
  - 4) ロールプレイの実施
- ・支援のイメージ作り
- ・支援の手法・レパトリーの拡大  
受入団体とのネットワーク、研修生同士のネットワークについて
- ・受入団体とのネットワーク
  - ・定期的、継続的な連絡（メール・電話）
  - ・団体間交流 - 他スタッフの見学等 -
  - ・講演会の開催 - 講師依頼 -
  - ・遊びに行く
- ・研修生同士のネットワーク  
目的：情報共有等によるつながりの継続
  - ・メールリストの活用
    - ・定期的な配信
    - ・フェイスブック、チャットワークスの検証
    - ・まずは最後に記念撮影しそのデータを配信